



業況DIは、若干改善するも、先行きは力強さに欠ける

ポイント

▶1月の全産業合計の業況DIは、▲31.9と、前月から+3.0ポイント改善した。復興需要を見据え、建築資材の取引が活発な卸売業の業況が大幅回復したことが主要因。しかし、超円高により、輸出の減少や取引先の海外移転加速に伴う受注の減少などの悪影響が及んでおり、企業経営は厳しい状況が続いている

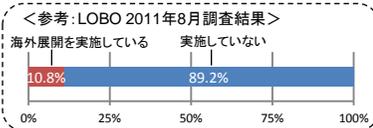
▶先行きについては、先行き見通しDIが▲31.4(今月比+0.5ポイント)と、ほぼ横ばいとなる見通し。今後、第三次補正予算の本格執行が見込まれるが、地域経済への波及効果がまだ弱く、大幅な業況改善にはつながらないとの声が多い。また、超円高や海外経済の動向、先行き不安に起因する消費マインドの冷え込みなど、懸念材料が多いことから、先行き見通しに対する慎重な見方が根強い

自社の海外展開の実施状況

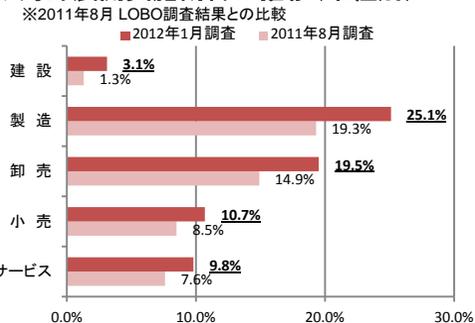
- ▶海外展開(※)を実施している企業は全産業で13.8%。業種別では製造業25.1%、卸売業19.5%、小売業10.7%と2011年8月調査と比較して全業種で拡大している
- ▶海外展開の実施にあたって直面する課題は「現地でのビジネスパートナー(取引先)との関係構築」が18.0%と最も高く、次いで「海外事業に精通している人材の確保・育成」が16.4%

(※)自社製品・商品の輸出、海外での生産・販売・物流拠点の整備・増強、生産・販売委託、調達等

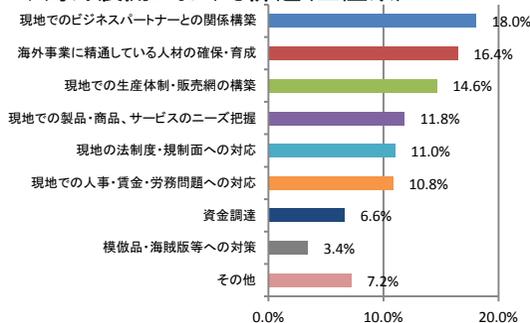
◆海外展開実施の有無(全産業)



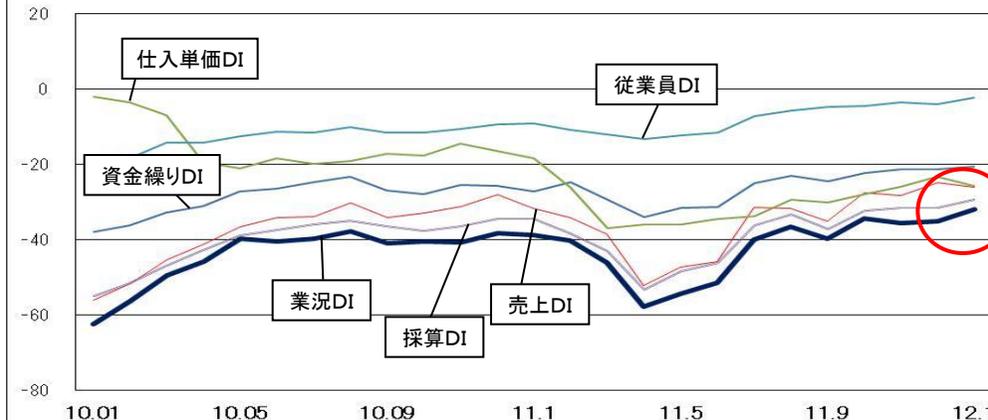
◆海外展開実施割合の推移(業種別)



◆海外展開における課題(全産業)



LOBO全産業合計の各DIの推移(2010年1月以降)



[中小企業の声]

- ▶販売および生産委託を検討しており、シンガポールの現地事情把握のため近々視察を予定 (帯広 水産加工製造業)
- ▶ロシア企業と合弁会社を設立。おもにサハリンで土木工事を受注している (札幌 一般工事業)
- ▶青果、野菜の仕入れ先を可能な限り海外に変更している (石岡 青果卸売業)
- ▶現地生産にあたって、目下の課題は製品品質の維持 (東京 測定機器製造業)
- ▶所属している業界団体で、タイに共同の営業拠点を設ける動きがある (東京 加工機械製造業)
- ▶現地の代理店に販売を委託。代理店スタッフへの技術指導、客先への同行、現地展示会出展への協力・補助の拡大等、販売支援を強化している (東京 計量・測定機器製造業)
- ▶円高対策として、部品の海外調達比率を増やし、経費抑制に努めている (横浜 船舶用プロペラ製造業)
- ▶中国企業との合弁会社を設立する準備を進めており、現地のビジネスに精通した人材の確保が急務 (鳥取 金型製造業)
- ▶自社開発ソフトの海外販売に向けて、提携先と海外で稼働テストを開始 (北九州 システム開発業)